

## 日本語感 04

インフルエンザが流行る中、最近体調のことを考え昼ねや仮眠をとるようになった。単に怠けぐせがついてきたのかもしれないのだが。。。

それはさておき、横になった際に「おやすみ」と声を出す。一人なので誰に言っているのでもないのだが、自然と「おやすみ」の言葉がでる。それは挨拶言葉というのか、コミュニケーションを図る表現のひとつで、他にはおはよう、こんにちは、こんばんは、どうも、ってきます、行ってらっしゃい、ただいま、おかえり、いただきます、ごちそうさま、よろしゅうおあがり。。。などがある。

その数は他の言語と比べると意外と多く、言語的に興味深いところでもある。その辺は皆さんにも探ってもらいたい。今回の「おやすみ」で気付いたのだが英語に訳すと‘good night’になる。でもお昼ねや仮眠を夜以外にとる場合は‘good night’とはいえない。‘good night’を直訳すると「良い夜」、Have a good night. では「持つ 一つ 良い 夜」となる。（この「単語を並べただけの言語」に関しては、また後ほど触れたいと思う。）さて「おやすみ」は夜以外でもつかえる、すなわち**寝る前の挨拶**ということになる。

また、外国に出てよく困ることがある。特に「いただきます、いただきます、おかえり」は訳すのが難しい。これは考え方や感覚の違いで起こるもので、脳の構造と深い関係があると言っても過言ではないだろう。「ご馳走様」や「お帰り」なども直訳はできない。英語で片付けると‘Thank you for the meal.’ ‘Welcome back’ ぐらいで、そのときの状況や雰囲気でももちろん応用を利かせることができる。

外国でよく聞かれるのが、英語圏の場合「日本語でHi（ハイ）やHello（ハロー）をどういいますか？」スペイン語圏の場合「日本語でHola（オラ）をどういいますか？」で、これが一番聞かれて困る。基本の呼びかけの挨拶の言葉を日本語ではどうなのか？ 実際それは存在しない。こういった現実には外国人の多く、また日本人の多くの方が把握していないんだなあと感じる。そういうことを考えることもなく、実感するものでもなく、また簡単に片付けることができるからなのかもしれない。日本での英語の授業で、「Hello = こんにちは」に片付けられているケースが多い。「Hi = やあ」ぐらいかな。

しかし、外国の方々に「日本語にはもっといろんな言い方があるんだよ。あるんだよ～。あるんだよおおおおおう～つ」と、言ってもなんだか伝わっていない。「大は小を兼ねるが小は大を兼ねない」ということであろう。Hello = やあ、こんにちは、もしもし、あの～、ちょっと、オイっ、ハロー、ねえ、こんちわ、ちわ、ちわっす、ういつす、おっす、おいつす、よー、よっ、チューウガナビラ（沖縄）、んちゃ！（Dr. スランプアラレちゃん）、クピークピプー（？、ガッチャン）で、この逆 = Hello または Hi になる。ガッチャンやアラレちゃんの例を参考にすれば、おそらく挨拶言葉は無限に作ることもでき、また通じさせられる（理解できる）ものとなる。

日本語の様に挨拶言葉の表現力が豊かな言語に未だ出会えていない。それまでは、Hello = こんにちは、で片付けておくのが無難だ。

西田賢司

2009 年5 月19 日、午後6時43分

サンホセ、コスタリカ